

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591000041		
法人名	(株)コウケンパートナーズ		
事業所名	グループホーム アクア		
所在地	山口県光市木園1丁目4番5号		
自己評価作成日	平成23年2月22日	評価結果市町受理日	平成23年6月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成23年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは自然豊かで風光明媚な環境にあり、かつ生活の利便性も良い場所に設置しており関連のスポーツジムにてマシン等を利用して筋力低下の防止に努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三食とも事業所で食事づくりをされています。調理専門の職員を確保されており、その職員を中心に他の職員や利用者も一緒に、調理、盛りつけ、配膳、下膳などできることをしておられ、利用者の好みを聞かれたり、行事に合わせての料理や栄養バランスのとれた食事の提供に配慮される他、外食に出かけるなど利用者が食事を楽しめるように支援しておられます。ラジオを聴かれたり、週刊誌や新聞を読んだり、テレビを観たり、編み物やぬり絵、習字、カラオケ、トランプ、体操、法人のスポーツジムでの運動、家事(掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、野菜の下ごしらえ、台拭き、盛りつけ、配膳、下膳等)などの一人ひとりにあった楽しみや活躍の場面を通して利用者が喜びやいきがいを持って過ごせるように支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中で「地域の中で」「今を楽しく」「家族に安心を」その理念を実現させる為に方針を決め職員全員で共有し実践できるように取り組んでいる。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を職員全員でつくり、玄関、ホール、事務室に掲示して職員の意識づけをして共有し、実践につなげている。「家族に安心を」では、面会時や電話で家族に様子を伝え、「地域の中で」は地域に積極的に出向くように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏には自治会の盆踊りに参加し、年末には餅つきやしめ縄作りをして地域の行事に参加をして交流している。	自治会に加入し、自治会の総会やクリーン作戦に職員が参加したり、盆踊り、餅つき、しめ縄作りの地域行事に参加している。地域版の事業所便りを自治会の班で回覧してもらったり、散歩時に挨拶を交わすなど地域の人と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、毎回地域の方にも自治会長にも参加して頂いており、その中で認知症への理解や支援について議論することがある。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	このたび初めての外部評価となり、アクアの実施した内容の評価を頂きその評価を活かして今後の活動に繋げていきたいと思う。	評価の意義を理解して全職員で評価に取り組んでいる。評価することで初心に返ってケアについて考えることを再確認する機会になったと捉えている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回の報告会ではあるが、自治会長の参加や地域の方、認知症を支える会の参加で貴重な意見を頂きサービス向上へ反映できるよう取り組んでいる。	自治会長、地域包括支援センター、認知症を考える会、家族などが参加し、2ヶ月に1回開催している。事業所の利用状況や活動報告をし意見交換している。火災時の避難対応マニュアルについての意見を活かすよう取り組んでいる。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の包括支援センターの担当者に毎回出席して頂いており、施設の実状等を詳細に報告している。協力関係は充分に築けている。	運営推進会議の他、市の窓口に出向いたり、電話等で市の担当者に相談し、助言を得たり情報交換をするなど協力関係を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ドアは道路に面し交通量が多く安全確保のため、また施設自体、電子ロックシステムとなっている。	身体拘束についての方針やマニュアルがあり、勉強会を実施して、職員は正しく理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。事業所が道路や川に面していることで安全確保のため、事業所の出入口は終日ロックしている。	・鍵をかけずに安全に過ごせる工夫
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、研修や勉強会を実地して虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では関係する方はおられませんが学ぶ機会を持ち理解し、活用できるように支援している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の家族に対し十分な説明を行い理解、納得して頂いたうえで契約等を行う。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の声はいつも聞き、運営に反映させている。また、ご家族からの意見、要望は面接時に聞いたり運営推進会議でも頂いたりと運営に反映するように取り組んでいる。	運営推進会議、面会時、電話、月1回利用料支払時、介護計画作成のための面接時等に家族から意見や要望を聞き運営に反映させている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員全体の職員会議を開催し発言の場を設けている。また、意見や提案があれば話し合いをしたり連絡帳の活用等で対応し反映出来るように努めている。	職員間の連絡帳の活用や月1回の職員会議で職員からの意見や質問、要望を聞き、出された意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を反映し必要な福祉道具等を積極的に取り入れて職員が対応しやすいような方法を取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や施設内での勉強会を行う機会を確保している。	内部研修は年間計画を作成して、月に1回1時間程度実施している。外部研修への参加の機会を提供し、受講した職員は復命報告をして資料を閲覧し共有している。日常の業務の中で管理者が指導助言して働きながら学べるように取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が施設外研修の部会に参加をしてサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ会話をするようにしている。又、会話の中からその方の思いをくみ取り安心して頂けるような声掛けを工夫している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に先だって時間を取り御家族の思いや入居者様の様子を聞き安心して入所できるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にアセスメントをしご本人の思い、情報を取り入れることにより今、何が一番必要な支援かを考えだすようにしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に受け身の支援ではなくご本人が出来ると思われることは本人に任せて頂いたり又、職員と一緒に行動するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時にはホームでの様子を話したりホームたよりの発行により常に御家族に様子がわかるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所はふるさと巡りでドライブなどをしながら通りその頃の思い出話を聞いたりしている。	自宅周辺の訪問、馴染みの店での買い物、美容院の利用、友人や入居前に飼っていた犬の面会、手紙、電話、携帯電話での連絡等馴染みの人や場との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれ性格も違うので合う合わないがあるがなるべく職員が間に入るようにし会話等を取り持つようにし、出来ない方へは出来る方が手を貸してあげるような声掛けをしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1名入院されこちらで生活出来る見込みがなく退去されたが時々お見舞いしたり退去後もご家族にお会いすれば様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を送る中から会話等を通して本人の思いを把握するようにしている。困難な場合は本人に一番合った方法を見つけ職員は統一した対応で支援している。	日々の関わりの中で、利用者との会話などで聞きとった思いや意向を経過記録に記録し把握に努めている。困難な場合は利用者の表情などから汲みとり、職員で話し合って共有し、家族からも聞きとるなどして、本人本意に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にアセスメントをして情報を取り入れている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録を記入したり又それを確認して毎日の状態を把握している。勤務に入る前には必ず引き継ぎ、申し送りをして様子が分かるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスを開いて課題やケアの方法について話し合っている。御家族とはケアプランについて担当者会議を開催して話し合いをしている。	月1回のカンファレンスや家族も参加しての担当者会議を開催し、医師や家族の意見を参考にして介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを行い、変化があればその都度カンファレンスを開催して見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を記入することによって情報の共有化を図るとともに問題点があれば記入してもらいケアプランを作成する時の参考になっている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同系列でスポーツジムがあるので利用できる方は週1回のペースで通いトレーニングし筋力低下の防止に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として地域で開催される行事に参加させて頂いたり、ボランティアによる音楽会も開催して楽しむことができるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	家族との話し合いを行い、提携病院での受診を行って本人にとって適切な治療が受けられるよう支援している。かかりつけ医との関係も関係も築けるよう取り組んでいる。	協力医療機関をかかりつけ医としている。他科等の専門医療機関への受診支援や救急時、必要時の往診もあり、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	入居者に変化等があった場合は提携病院の看護師へ報告、相談は徹底しており、適切な受診や治療を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院や急変時に備えて病院関係者とともに円滑な対応が出来るような体制作りに取り組んでいる。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の家族等と話し合いを行い事業所で出来ることを十分に説明し提携病院医師からの指示等で支援に取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期に事業所で対応できることを家族に説明している。実際に重度化した場合は、医師、家族、関係者等で話し合い、共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止や事故発生時等の勉強会を行っている。	ヒヤリはつと報告書に記録し、全職員で原因や対応策について話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。消防署での普通救命講習を4名の職員が受講している。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市では24時間対応出来る体制があり、又、自治会に協力して頂けるような体制は依頼してある。	年2回、避難訓練(夜間想定を含む)を実施している。運営推進会議の中で自治会への協力について働きかけている。	・地域との協力体制についての検討
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼のないような言葉かけを心がけその方に合う会話を行っている。排泄、入浴時は特にプライバシーが確保できるように支援している。	マニュアルがあり、利用者一人ひとりのこれまでの人生を受容して尊重し、尊敬の念を持って接するようにこころがけ、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底している。日常のケアで気づいたときは管理者が職員の指導をし、ミーティングで共有できるように努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洗濯干しや洗濯たたみなど入居者が自分の意思にておこなっている。又、入居者同士がお互いを気遣われる事が多くみられる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご本人のペースで生活出来るように支援しているが外出の希望があっても対応できない日もある。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品等、職員と一緒に買い物に出掛け好きな商品を自己選択して頂き購入している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせた調理、配膳、下膳など出来ることをして頂いている。	三食共事業所で食事づくりをしている。調理専門の職員(シルバー人材センター)を中心に、事業所の職員、利用者と一緒に調理、盛りつけ、配膳や下膳をしている。利用者の好みを聞いたり、行事に合わせて栄養バランスのとれた食事を提供している。職員は利用者と同じ物を食べながら会話をはずませ食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく食事が摂取できる様、夜勤者が献立を考えカロリー、食事量、水分量も管理し記録に残し支援をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず口腔ケアを施行し義歯の手入れも行う支援をしている。夜間は義歯を洗浄剤を利用し口腔ケアのセットはミルトン消毒を毎晩行う。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレに排尿、排便表を掲げており、介助の必要な方へは時間誘導を行っている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	申し送り時に排便状況を必ず次勤務者に送り把握している。また、運動や牛乳を提供したり水分量にも注意して支援している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴としているが湯量の関係で一日4～5人程度の入浴となっている。	毎日入浴できるようにお湯を用意して、利用者の半数がゆっくり入浴している。入浴剤の使用や、入浴後にローションでマッサージを行うなど入浴が楽しめるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて居室での休息を促している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ごとに服薬管理ファイルがあり理解している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力量に合った家事参加を依頼している。又、趣味が出来るよう支援している。	ぬり絵、習字、カラオケ、トランプ、体操(ラジオ、嚙下)、リハビリ(ジムでの運動)、編み物、ラジオを聴く、テレビを観る、週刊誌や新聞を読む、掃除、台拭き、盛りつけ、配膳、下膳、下ごしらえ、洗濯物干し、洗濯物たたみなど楽しみごとや活躍できる場面を多く用意して、利用者が生きがいのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食やドライブに出かけておりホームの近くを散歩をしたり野鳥の訪れる河川を散策している。地域行事にも参加をして地域の方に協力をして頂いている。	事業所の周辺の川の土手を散歩したり、買い物や外食、季節毎の花見、ドライブなど利用者の希望にそって戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は苑で管理をしている。個人が必要な物や欲しい物は一緒に買い物に出かけて購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自ら電話が出来るように支援している。手紙のやりとりもされている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地良く生活出来るように加湿つきの空気清浄機を設置し温度湿度を管理し、季節感を感じることをできるようなコーナーを作っている。	湿度、温度、におい、音、明るさに配慮している。利用者と職員で作った季節に合った作品や花を飾り季節を感じられるようにし、台所から調理の音や匂いがして利用者の食欲がわくように、生活観があるように五感刺激につなげている。ソファに座ってテレビを観たり、仲の良い人同士で話したりと居心地良く過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではテーブルとソファを設置し一人で過ごしたり仲の良い仲間でも過ごせるような空間になっている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の好みのものを持ち込んで頂き快適に居心地良く生活出来るように工夫している。	居室には加湿付空気清浄機とベッドが備え付けてある。使い慣れたタンス、布団、ラジオや好みの物、家族の写真などが持ち込まれ、居心地よく落ち着いて過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来る事は可能な限りして頂き、トイレ、廊下、浴室に手すりを設置し安全かつ自立した支援をしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームアクア

作成日： 平成 23年 6月 18日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	応急手当や初期対応等の定期的な訓練が実施されていない。	応急手当や初期対応等の定期的な訓練の実施を行う。	①関係施設の看護師から定期的な訓練を受ける ②緊急時の対応等についての施設外講習や研修を受けて職員間で勉強会を実施する。	1年間
2	7	事業所の出入り口は終日ロックされている。	終日、ロックせず、施錠解放時間を設ける。	入居者様の状況に応じて短時間でも可能な時間を作る。その際、玄関口は交通量が多く危険な為、庭に通じる通用口を開放する。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。